

神戸女子短期大学の学生 栄養士実力認定試験の成績優秀者として表彰を受ける

平成25年12月8日(日)に行われた一般社団法人全国栄養士養成施設協会認定の栄養士実力認定試験において、神戸女子短期大学食物栄養学科2年生(当時)の上野 知世さんが全国9,388人の受験者中13位、短期大学養成課程4,342人中1位と健闘し成績優秀者として表彰されました。

同協会は、栄養士の知識や技能を担保するための実力認定試験が必要であると考え、栄養士の資質の均一化と質の向上を目的として平成16年から協会主催の栄養士実力認定試験を実施しています。

昨年に引き続き同協会の表彰を受け、短期大学養成課程としても、連続1位を獲得しました。

上野さんは社会人として神戸女子短期大学に入学しました。専業主婦であった上野さんは、バランスの良い食事をとることが健康な生活の源であるといった漠然とした知識はありましたが、離乳食を作るようになって、理論的に栄養

について学びたいと思うようになりました。そして、食育活動を積極的に行っている本学の食物栄養学科のことを知り、知識を得るだけでなく栄養士の資格も取りたいと考えました。

子育てをしながら2年間の学生生活は、多忙ではありましたが、以前大学で学んだ分野とは全く異なる専門科目の講義は新鮮で、実習の時間は実生活ですぐ役に立つ知識と技能が身につく、思い切って再び学生になったことに満足する毎日でした。家庭では十分な学習時間が取れないので、授業時間に集中して講義内容を全て理解する意気込みをもって授業に臨みました。昼休みや空き時間に復習をして、学業と主婦業を両立させました。

4月からは、神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程に編入学して管理栄養士になることを目標に、さらに勉学に励んでいます。将来は、管理栄養士として病院に勤務して人々の役に立ちたいと希望しています。



卒業記念パーティ会場で学科主任の田中智子教授(右)と担任の今本美幸准教授と記念撮影



須磨キャンパスのネットワークパソコンコーナーで学習する上野知世さん



総合生活学科 新カリキュラムによる新たな科目紹介

神戸女子短期大学総合生活学科では、平成25年度のカリキュラム改訂により、学生は10の多彩な分野から自由に科目を選択し、自分の興味のある分野で専門的な知識と高い技術が身につけられるようになりました。中でも「心理」の分野は、社会生活を送るうえで様々な行動につながる、総合生活学科ならではの実践的な12科目が開講され学生にも好評です。

今年度から「動物心理学」「ビューティ心理学」など6科目が新しく開講され、前期の「動物心理学」(他5科目は後期開講)は1年生40名が受講しています。身近にいる動物を観察し、言葉をもたない動物たちの行動や形態を学



イルカのトレーニング、飼育とエンリッチメント(注)についての講義の様子
講師:神戸市立須磨海浜水族園 飼育展示部 海獣飼育課 古田 圭介課長

び動物たちの価値観を理解する能力を養い、ともに生きる仲間として捉えることができるようになることが目的です。

15回の授業の前半を神戸市立須磨海浜水族園のスタッフの方々がおムニバスで担当し、後半を動物病院の獣医師の先生方が主にイヌ・ネコについて講義されます。

人と動物の関わり合いについての理解を深め、地球上に生きる多くの動物たちの生存権を考えることも授業の大きなねらいです。

(注)動物福祉の立場から、飼育動物の幸福な暮らしを実現するための具体的な方策。飼育環境に工夫を加え、動物の生活を豊かで充実したものにするという試み。

神戸女子短期大学 学科特別演習(ゼミ)紹介

神戸女子短期大学幼児教育学科の長谷川 美和准教授のゼミは、子どもたちの楽しい造形表現活動のための支援について、研究と実践に取り組んでいます。

ポートアイランドキャンパスは、神戸市の海上の人工島であるにもかかわらず、街路樹が多く、緑豊かな環境に囲まれています。そして本学のキャンパスは季節の花で、常時彩られています。

長谷川准教授は、学科特別演習I、II(ゼミ)の授業でキャンパス内に見られる植物を観察し描く授業を行っています。毎年4月後半から5月の中旬にかけて、ゼミ生たちは、キャンパスに咲く心惹かれる花を見つけ、自分の感じる美しさを120色の色鉛筆を使い描きます。花をじっくりと観察し、集中して描かれた作品は、個性的で実物の花に負けない

ぐらい心に響く美しさです。この授業では、絵を描くことを通して、集中力や観察力も養い、美に対する感性を高めることを目標としています。そして、一人ひとりの子どもを大切にする心を育み、子どもの造形表現活動の支援を行う方法を身につけていきます。

今回描いたキャンパス内の花の作品は、コラージュなどの技法を用いてさらなる展開を経ていきます。最初に描いた花のイメージを自分らしく広げて、個性あふれるみずみずしい感性を存分に発揮した作品となるでしょう。これらの作品は、平成27年の1月に開かれるBLOOM展(注)に出展する予定です。ぜひご覧ください。

(注)神戸女子短期大学の全学科の作品展



好きな花を見つけスケッチする学生



数多くの色を重ねて描く



長谷川美和准教授(後列左)とゼミ生

英語演劇鑑賞の夕べ

ウィリアム・シェイクスピア作「ロミオとジュリエット」公演

平成26年5月20日(火)神戸女子大学須磨キャンパス「体育文化ホール」において国際シアターカンパニー・ロンドン(International Theatre Company London 以下ITCL)による

ウィリアム・シェイクスピア作「ロミオとジュリエット」が上演されました。人気の演目でもあり会場は、約900名の観客をお迎えし満員となりました。

ITCLの公演は、地域連携活動の一環として毎年開催し、今回で9回目の公演です。

運命の罠にはまっていくロミオとジュリエットの悲劇を少人数の出演者がひとりで複数の役を演じ、卓越した演技に歌や踊りもまじえた舞台は、観客を終始魅了しました。

文学部英語英米文学科の学生が中心になり、協力して看板作成、受付、アナウンスといった運営をしています。この行事に参加したことで、シェイクスピアの作品への興味や理解が深まり、短時間ではありますがITCLの俳優とスタッフとの交流も行われ、学生が生きた英語を学ぶ場にもなっています。



受付の様子